

平成 31 年第 1 回定例会 文教常任委員会

平成 31 年 3 月 12 日

意見発表

小野寺委員

文教常任委員会に付託された諸議案及び所管事項に対し、公明党県議団として意見、要望を述べさせていただきます。

はじめに、高等学校就学支援事業についてです。貸付け型の奨学金については、平成 31 年度の当初予算額は約 11 億円と、平成 30 年度と比べ約 3 億円の減額となっています。高校生等奨学給付金や高等学校等就学支援金などの充実や公立に続き、所得制限つきとはいえ、私立高校も授業料の実質無償化が進む中で、就学支援事業の形も今後変化していくと思われれます。時代のニーズを的確に捉えながら、経済的な理由から高校進学を希望する中学生が進学の機会が奪われることがないように、引き続き、奨学金をはじめとする高校生に対する就学支援事業の充実を図るよう要望いたします。

また、貸付け型奨学金の利用を人数で比べると、私立高校生が公立高校生の 3 倍、金額で比べると 6 倍ということですので、今後も教育委員会が担うべき事務なのかどうか、検討すべき時期が来ていると考えています。

次に、県立学校におけるエアコン設置の推進についてです。我が会派の代表質問に対し、教育長から、県立高校の特別教室や特別支援学校の未設置の教室、体育館へのエアコン導入について、今後、5、6 年で進めていくとの前向きな御答弁を頂きました。県立高校は 500 程度の特別教室に導入予定ということで、平成 31 年度は約 100 教室への設置に向けて、設計予算額で 5,029 万円が提案されております。今後も含め、しっかりと事業を遂行していただくことを要望いたします。

また、特別支援学校の体育館については、体温調整が困難な子供たちが暑い夏においても伸び伸びと運動などができるよう、更には、災害時に福祉避難所に指定されているところが多いことから、平成 31 年度に調査を行った後は、できるだけ早期にエアコンを整備していただくことを要望いたします。

次に、県立高校における舞台芸術科の設置についてです。他の都県に設置されている舞台芸術関係の学科について、その定員や応募状況について伺ったところ、1 学年の定員は 40 人程度と、どこも似たような状況でしたが、応募倍率等は学校によって、あるいは男女によって開きがあるようでした。

1984 年に我が国で初めて演劇科を設置した東京の私立高校では、31 期生を最後に、2014 年をもって募集を停止いたしました。その学校では、日本を代表する劇団のメソッドに基づき、生徒を指導していましたが、近年、生徒が思うように集まらなくなったことが理由のようです。

指導者の確保については、一過性のものではなく、継続性も重要であることから、人選についてはしっかりと取り組んでいただきたいと思います。また、学ぶ内容について入学後にミスマッチを起こすことのないよう、生徒募集に際しては、中学校や生徒、保護者に十分な説明を行っていただくことを要望いたします。

次に、SNSいじめの対応についてです。今やSNSは、子供たちにとって人間関係を築く上で欠かせないツールになっておりますが、使い方によっては様々な問題を生じさせます。その一つがいじめです。

SNSを使ったいじめは、これまでのネットいじめよりもなお、外部から分かりにくいという特性があります。こうした中、東京都では情報モラル教育のためにSNS東京ノートという教材をLINE社と一緒に作成し、SNSいじめについても分かりやすく教えていると聞いています。

本県でも、県教育委員会、県警察及びLINE社が昨年5月に協定を結び、インターネットに起因した非行や被害、トラブル等を防止する研究を行っており、その成果を基に教材を作成し、教育現場で活用しているとのこと。情報社会を生きる子供たちにモラルとスキルを身につけてもらえるよう、しっかりと取り組んでいただくことを要望いたします。

最後に、金銭教育について申し上げます。インターネット上の課金を巡って、小学生も金銭トラブルに巻き込まれる時代になりました。これまでも、小、中、高校と子供たちの発達段階に合わせて、お金の大切さや金銭トラブルの防止、契約等に伴うリスクなどを学ぶ教育を行ってきたと承知していますが、最近では、電子決済や電子マネーなど、いわゆる見えないお金が身近なものになり、金銭管理は正に異次元の世界に突入した感があります。

学校では、限られた時間の中で、様々な教科の中で、金銭に関する教育を行っているということですが、もはや教科の一部としてではなく、教える側もそれなりの専門性を身につけた上で、しっかりと体制を整え、充実した金銭教育を行っていただくことを強く要望いたします。

以上、意見、要望を申し上げ、当委員会に付託された諸議案に対して公明党県議団として賛成し、意見発表を終わります。